様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　2024 年 12 月 25 日

１．職名・氏名　助教・木村　多佳子

２．学位　　学位　修士　、専門分野　社会福祉学　、授与機関　関西学院大学　、
授与年　1996 年

３．教育活動

⑴講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 保健医療と福祉（2 単位　毎年開講）　3 年生
②　内容・ねらい 内容：保健医療サービスの概要と医療ソーシャルワーカーの業務および役割に関する講義。 ねらい： （１）　保健医療分野でのソーシャルワーク実践において必要となる医療保険制度や保健医療サービスに関する知識を体得させる。 （２）　医療ソーシャルワーカーの役割と他の専門職との協働について理解させる。 （３）　医療をめぐる諸問題に関心を持たせ、利用者のニーズに気づく洞察力を養う。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 指定テキストとともに配付資料およびパワーポイントによる講義を行っている。国家試験出題範囲のみならず、医療ソーシャルワーク分野の事例検討を取り入れ、医療機関でのソーシャルワーク実習や精神保健ソーシャルワーク実習の事前学習につながる講義内容を展開している。ちなみに指定テキスト『保健医療と福祉』（2020 年、学文社）では「第 9 章　地域包括ケアシステムと在宅医療」を分担執筆した。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 ソーシャルワーク演習Ⅰ（１単位　毎年開講）　１年生
②　内容・ねらい 内容：個別支援における基本的な傾聴態度、支援過程、基本的応答技法の訓練を行い、支援者としての自己理解を促す演習。 ねらい：（１）具体的な事例や援助場面を想定し、ロールプレイ等を中心にソーシャルワークの専門技術の理解と実践力を養う。 （２）課題を抱えた対象者への支援の一連の過程を習得する。その中で、ソーシャルワークの知識、価値、倫理について講義科目で学んだ視点を復習させる。 （３）具体的な事例を通して、人権尊重、権利擁護、自立支援についての理解を深めさせる。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 主に身体障害者の支援における初回面接についてのロールプレイを体験させ、社会福祉士をめざすにあたり学生自身の課題とすべきことを明確にできるような課題を設定した。 また、コミュニケーション（対面での言語と非言語による表現）に関する体験学習を行った。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 ソーシャルワーク演習Ⅱ（2 単位　毎年開講）　２年生　オムニバス講義
②　内容・ねらい 内容：基本的面接技術のロールプレイ、社会福祉および医療現場での事例検討など援助技術の訓練を行う演習。

ねらい：（1）ソーシャルワーク実習で必要となる基本的面接技術を体得させる。
（2）事例を通して、利用者理解と同時にアセスメント、プランニング等の支援プロセスを理解させる。
（3）家族ライフサイクルの知識、チームアプローチ、ネットワーキングの手法を理解させる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ケースメソッドにより、終末期における患者家族への支援事例を段階的に示し、初回面接から退院支援までのプロセスについてのロールプレイを体験させる。そして、患者の死後のグリーフケアやひとり親家庭に必要となる社会資源の開発についてグループで考えることにより、公的な制度・サービスでの不足部分に気づくことをめざしている。また、クラスへの参加態度や理解の様子から気づいた点を「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」に生かすよう心がけている。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク実習（6 単位　毎年開講）　3 年生

② 内容・ねらい
内容：社会福祉士国家試験受験資格を目的とした社会福祉施設・機関および医療機関での現場実習。
ねらい：（1）社会福祉士としての必要な知識・技術・価値および関連知識への理解を深め、社会福祉サービスの利用者と社会福祉士の援助の実際を学ぶことにより、社会福祉士としての実践力を向上させる。
（2）実習での具体的な体験・活動を通して、総合的に対応できる能力を習得させる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

担当教員によるソーシャルワーク実習会議（月 1 回定例）に出席し、情報共有に努めている。実習先配属作業や実習関係者会議およびソーシャルワーク実習報告会の行事運営に協力し、現場実習指導者との関係形成にも積極的に取り組んでいる。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（1 単位　毎年開講）　2 年生

② 内容・ねらい
内容：ソーシャルワーク実習を履修するための事前学習を講義および見学実習によって行い、次年度「ソーシャルワーク実習」配属先を決定する。
ねらい：社会福祉士として必要な知識・技術・価値および関連知識を確認し、「ソーシャルワーク実習」に耐え得る専門的な力量を備える。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

配属先決定に関しては学生を個別に把握することが必要となるため、見学実習での様子や事後学習での発言に注意を払い、実習配属前の個別対応を担当している。

7 名の教員で担当し、生活保護施設、医療機関、福祉事務所の実習指導者による講義と、授業時間外に児童福祉施設、障害者支援施設、介護老人福祉施設、社会福祉協議会での見学実習を実施した。

【ゲストスピーカー３人】
【見学実習４件（グループ別で 10 か所）】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（1 単位　毎年開講）　3 年生

② 内容・ねらい
内容：ソーシャルワーク実習を履修するための事前学習、実習期間中の巡回指導および帰校日指導、そして実習終了後の事後指導を行う。
ねらい：社会福祉士として必要な知識・技術・価値および関連知識への理解を深め、社会福祉サービスの利用者と社会福祉士の援助の実際を学ぶことにより、社会福祉士

としての実践力を向上させる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

配属先決定後のクラスでは、クラス指導と個別指導を組み合わせながら、事前学習や実習計画書作成、実習中の帰校日および実習後のスーパービジョンを実施している。

また、実習前の全体授業では「生活支援技術の体験学習」について福井県介護福祉士会より講師を招き、「地域を基盤としたソーシャルワーク実践」について、福祉事務所と社会福祉協議会の講師による講義を実施した。

【ゲストスピーカー３人】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

現代福祉問題論（２単位 毎年開講） １年生 オムニバス講義

② 内容・ねらい

内容：社会福祉学科で学ぶ全体像を新入生にとって分かりやすく 1 回完結のオムニバス形式で講義する。

ねらい：社会福祉（学）を構成する数々の知見や議論の概要を把握させる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

専門分野である「在宅医療とソーシャルワーク」をテーマとした講義とグループに分かれてチームビルディングの体験学習を実施している。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

共生社会論（２単位 毎年開講） ４年生 オムニバス講義

② 内容・ねらい

内容： 共生社会という「キー概念」を軸にそれぞれの専門を持っている教員による分野ごとの総括をする。

ねらい： 専門分野を持つ教員による講義を通じて、社会福祉（学）を構成する数々の知見や議論の概要を共生社会という視座から総括できるようになる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

卒業後、社会人になるにあたり「ワーク・エンゲイジメント」に関する解説と、ソーシャルワーク専門職としての成長に必要な「スーパービジョン」「職能団体」をテーマに講義を行った。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

社会福祉基礎演習（2 単位 毎年開講） 2 年生

② 内容・ねらい

内容：「生活者」と「多文化共生社会」をキーワードに学習とグループ討議を重ね、社会福祉学を学ぶ学生自身の興味や関心をさらに掘り下げる力を養う演習。

ねらい：（１）ゼミ運営の役割（司会、発表者、討論メンバー、企画提案）を学生が経験し、自発的に学ぶ面白さに気づく。

（２）情報収集→考察→発表・報告→討論→再考というプロセスを体得させる。

（３）学生が自身の研究的興味や関心およびテーマを持てるようになる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

文献講読、資料検索や発表、討論を行いながら、学生自身が個別研究発表する力をつけるための演習を展開している。また、3 年次以降の実習や卒業後のキャリア選択に関心がもてるような取り組みを行っている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

卒業研究（４単位 毎年開講） ４年生

② 内容・ねらい

内容：各自の研究テーマについて研究し、論文を作成するための指導。

ねらい：これまで学んできた社会福祉学のまとめとして、自ら選んだテーマに沿って自主的に研究を進め、より充実した卒業研究の作成を目指す。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

学生のテーマに応じた文献検索や研究計画の立案、研究方法、アウトラインおよび論文作成について、個別指導を行った。文献の引用方法や研究協力者への倫理的配慮といった研究者としての姿勢を重視した指導を行っている。

(2)その他の教育活動

内容
非常勤講師①
相談援助実習（実習巡回教員）　日本放送協会（NHK）学園　社会福祉士養成課程
非常勤講師②
相談援助実習　学校法人瓶井学園　日本メディカル福祉専門学校　社会福祉士科一般通信課程
非常勤講師③
精神保健福祉援助実習　学校法人瓶井学園　日本メディカル福祉専門学校　精神保健福祉士科通信課程

4．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

【0本】

② 学術論文（査読あり）

【0本】

③ その他論文（査読なし）

【0本】

④ 学会発表等

【0件】

⑤ その他の公表実績

依頼原稿「立ち止まり、ふりかえり、気づいたこと」『精神保健福祉』日本精神保健福祉士協会誌 138 号 55(3)、308-309 頁、2024 年 7 月。

【1本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】
科学研究費助成事業平成 31（2019）年度基盤研究(C)（一般）課題番号：19K02045
研究課題「少人数で就業する職種の労働環境と職能団体の機能に関する研究」
研究代表者：吉村臨兵（愛知学院大学）
研究分担者：木村多佳子
補助事業期間（延長中）：2019 年度～2022 年度、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う延長承認済⇒2019 年度～2024 年度（延長）(F-14)

(3)特許等取得

(4)学会活動等

研究会活動
① 実践記録研究会
② ソーシャルワーク実習演習研究会

５．地域・社会貢献活動

①-2 委員就任（県）
福井県こども療育センター第三者委員、R2.4～現在に至る。
①-4 委員就任（その他の公益法人等）
全国健康保険協会福井支部評議会評議員、福井支部の業務に関して適正な運営を行うための評議会への出席、H30. 11～現在に至る。同評議会議長、R2. 7～現在に至る。

② 国・地方公共団体等の調査受託等

③ （公益性の強い）NPO･NGO 法人への参加

④ （兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動

⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

⑥ 公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向け講座の開講

⑦ その他
一般社団法人　福井県社会福祉士会　生涯研修委員会委員、H27. 6～R6. 7.

福井県医療ソーシャルワーカー協会理事（副会長）、H30. 4～現在に至る。

社会福祉法人一乗谷友愛会・社会福祉法人新清会・医療法人厚生会・医療法人雄久会共催　「みなみ・社・東足羽・明倫管轄内小規模多機能事業所・認知症対応型共同生活介護・新人ケアマネ等 介護支援専門員等合同研修会」事例検討会講師、R6. 6. 20.

新潟県厚生連ソーシャルワーカー会
「第 73 回研修会」講師、R6.7. 6.
「スーパービジョン研修会」講師、R6. 10. 17, R7. 2. 17.（「保健医療分野のソーシャルワーカーを対象とした職場内スーパービジョン体制の構築に関するアクションリサーチ」の一環としての研修実施）

福井県総合福祉相談所
「令和 6 年度　依存症家族教室」講師、R6. 8.28, R7. 2. 26.
「令和 6 年度　アディクションを考えるセミナー」講師、R6. 12. 4.

福井県医療ソーシャルワーカー協会『基礎研修会』講師、R6. 12. 8.

社会福祉法人一乗谷友愛会・社会福祉法人新清会・医療法人雄久会共催　「みなみ・社・明倫管轄内 居宅介護支援事業所・小規模多機能事業所 介護支援専門員等合同研修会」事例検討会講師、R6.12.12.

一般社団法人　福井県介護支援専門員協会
「令和 6 年度主任介護支援専門員研修」講師、R7.1. 14.

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
職場委員会委員、R3. 4.～現在に至る。 学部広報ワーキンググループメンバー、R4. 4.～現在に至る。 【学科内委員】 日本ソーシャルワーク教育学校連盟担当 学生行事指導担当
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス・模擬演習担当、R6. 8. 4. 入試説明会（啓新高等学校）、R6. 7. 19. 学問発見講座（福井県立金津高等学校）、R6. 12. 16.
(4)その他、自発的活動など
国家試験対策講座講師、R6. 9. 12.